



百円居酒屋 の取り組み

～朝来サポートセンター鈴鳴荘～

9月14日、国東市にある小規模多機能ホーム「朝来サポートセンター鈴鳴荘」で行われている「百円居酒屋」の見学に行ってきました。

朝来サポートセンター鈴鳴荘がある国東市安岐町朝来地区は高齢化率が50%を超える地域で、朝来サポートセンターは平成20年3月31日に町内4校の統合により朝来小学校が廃校になることが決まった際、学校跡地を福祉施設として利用してもらいたいという住民の意向によりできた施設です。

百円居酒屋を始めるきっかけとなったのは、小規模多機能型ホームを開設するにあたって行った地域住民に対する聞き取り調査で「話をする場所がほしい」「お酒を飲む場所がほしい」という要望が多かったことだそうです。

開所当初から毎月1回第2土曜日に開催してきたこの活動も今回で53回目を迎えました。開始以来一度も休むことなく毎月開催されており、現在では、毎回地域の高齢者から子供まで百名を超える方々が訪れています。全て百円で提供されている料理やデザートやお酒を食べたり飲んだりしながら、久しぶりに会う人たちとの楽しい時

間を過ごす、この地域の人たちにとってなくてはならない行事になっています。

高齢化率が高い地域であるため、ひとり暮らしの高齢者も参加しやすいようにバスを運行する等の配慮もなされおり、なかなか外出することができなかったひとり暮らしの高齢者が百円居酒屋には訪れることができ、その結果数十年ぶりの再会もあるそうです。

開始当初は、ほとんどが鈴鳴荘の職員のみで行っていたこの活動ですが、平成22年9月からは「居酒屋応援隊」と称した地域のボランティアさんにお手伝いいただくようになり、その人数は50名を超えています。

また、提供しているお酒や野菜についても地元の酒蔵や地域の方からの提供されたものを利用する等地域に支えられた活動となっています。

また、昨年から高齢化により継続の危機にあった地域のお祭りを居酒屋と合同で行うようになり、地域の行事をこの百円居酒屋に合わせで行うなど地域を活性化するための核となる活動になっています。



百円居酒屋の活動を見て、高齢化、過疎化が進んでいる地域でも少し手助けをすることができるよう地域が活性化していくことができるのだというところを実感しました。今後、このような活動が各地で広がっていったらいいなと感じました。



福祉避難所開設・運営セミナー

8月28日、大分県総合社会福祉会館で「福祉避難所開設・運営セミナー」を開催、福祉施設の関係者や民生委員・児童委員、市町村の関係者など約200人が参加しました。災害時に高齢者や障がい者など支援が必要な方を受け入れる「福祉避難所」について考えるためのセミナーで昨年に引き続き第2回目の開催でした。



折腹 実己子(おりはら みきこ)氏

今回は宮城県仙台市より、東日本大震災の際、実際福祉避難所として施設を運営された特別養護老人ホーム パルシアの施設長の折腹 実己子(おりはら みきこ)氏が、『福祉避難所開設・運営から見た災害時の判断・対応と備え』というテーマで講演。実際震災が起きた際、情報が全く入らずに困ったこと、ライフラインが絶たれた中でサービスの提供を行ったことなどを、写真や体験談を交えながら話されました。そして実際に福祉避難所を開設して見えてきた課題や、パルシアでの今後のあり方や取組を教えてくださいました。

その後、大分大学の山崎栄一さん、日出町にある暁谷苑施設長の柿本貴之さん、佐伯市役所の西田将則さん、折腹さんの4名で、「大分県における福祉避難所の質の向上を目指して～福祉避難所が本当に機能するためには～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。その中で福祉避難所となる施設側の不安や課題、福祉避難所となる施設と協定を結んでいった行政側の今後の在り方と課題、それぞれの立場で話されました。最後に山崎准教授が「避難所に指定されている施設は、平常時から地域と積極的に関わることが大切。様々なパターンの災害を想定しながら、実戦訓練を行うことが有効」とまとめました。

昨年8月末時点で指定福祉避難所数は228か所でしたが、今年8月20日時点で348か所となっています。数的には確保はできたので、今後はその質の向上が大きな課題となっています。

